



花の兄弟



● 花の兄弟 (花の兄弟)

(C) 花の兄弟

花の兄弟に鉄火の恋に剣が舞い飛ぶ大殺陣

原作 子母灰窓「花の兄弟」著者 佐野正樹 監修 木暮実 音楽 三浦研次

花の兄弟

木市 満川 審成 千代藏

中沢三林 岩井成子 幸田千代藏

水島道枝 東千由

上山門 齋藤本一 木戸光一 美空ひばり

豊北 里出招五郎 一瀬若九郎 部第一

山根貞男のお楽しみゼミナール



「花の兄弟」は一九五六年の大映作品で、市川雷蔵が侍くすれのやくざに扮して大活躍する。武士が身を落とす設定は前年の「次男坊男」と同じバターンだが、雷蔵の悲ぶるさまなどに新鮮な魅力を感じられる。

この映画は三隅研次、市川雷蔵コンビの二本目に当たる。「二人は同じ五四年に監督・俳優としてデビューし、この前の映画も『浅太郎鳴』（五六）で出会った。コンビ作品は計十七本を数える。それでもう一本、六八年に『闇の跡太つべ』が撮られるはずで、クラシックインまでしながら残念にも雷蔵の病気で中断されてしまった。

「花の兄弟」は三隅研次の監督六作目、市川雷蔵の二十本目で、雷蔵はこのとき二十五歳。共演の林成年も同じ五四年に本格的にデビューし、このときやはり二十五歳。そんな兩人が兄弟役を演じて、ちゃんと雷蔵のほうが年上に見えるのは、さすが二十本という数をこなしてきたゆえの貴様か。年齢といえば、雷蔵に屈折した想いをいたく役の本暮千代はこのとき三十七歳。前年、清口健三の名作「新平家物語」では雷蔵の母親に扮している。それがここでも、翌年の「跡太郎笠」「桃太郎伴」でも、雷蔵に色氣で迫る女をみごとに演じる。だから女優

に年齢はないというわけである。

この映画が七十四分と短いのは當時の量産体制ゆえで、各社とも長さより二本立てに力を注いだ。そんな長い尺数でも、ドラマ展開の描写は緻密になっていて、三隅研次の演出力のほどを小す。たとえば東野英治郎たち悪党一味が黒装束に終始するのに対し、市川雷蔵がいつも柄の着物を着ているのは、明らかにノックロ画面の効果を計算しての配慮であろう。

市川雷蔵は一九六九年に、三隅研次は七十年に世を去った。もっと二人の映画を見たかったと思う。

なお、「花の兄弟」の原作は子母満實、脚本は太塙義彦、監督は三隅研次といふ組み合わせは、数年後、「座頭市物語」（七〇）を生み出す。



◎本音屋は併せ原稿から選り抜きで製作しておりますが、映画公開時より長くあります。あしからずお手ください。

市川雷蔵 市川雷蔵
森繁半蔵 林成年
辻見播磨 木暮千代
斎藤美千代
青木伸郎 長谷川英治郎
小笠原昭 水原清一
女房おお 岩田建子
美代次 三田登子
島田虎之助 荒木忍
莊 紗 中村正輔
大庭三吉 菊池徳次士
岩下義謙 松山鶴三五
伊藤源次郎 鶴間透二郎
西森藏 于賀義四郎
菅原晶南 尾上栄三郎
女房お芳 小和主子
丸山泰里 玉置一恵
岡豊理 白石道夫
河松賀屋 横山文雄
山本千鶴 はあや
高畠由美 小松みどり
山本千鶴 井田和子

T-NO.98003
1956年
74分・モノクロ
大映